

明治安田生命 子育てに関するアンケート調査を実施！
～子育て世帯理想の年収に近づくには女性活躍がカギに？
男性が妻に望む理想と現実の年収差は159万円！～

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女に「子育てに関するアンケート調査」を実施しましたのでご報告します。

1. 子育て費用に関する意識（詳細は4～11ページ参照）

■子育て費用の不足額は月額約2.4万円！最も負担に感じるのは「保育園・幼稚園代」で、共働き世帯の女性と専業主婦には負担感に違いが？

■「幼児教育・保育の無償化」は少子化解決策に？！

導入については4人中3人が「賛成」と回答！しかし、導入されたとしてもさらに子どもを望む人はわずか2.2%。望まない理由は消費税増税等の先行きの見えない経済的不安からか？

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「少子化における政府の子育て対策」について分析！

■子育て世帯理想の年収に近づくためには現在よりも277万円の収入アップが希望！妻が夫に望む理想と現実の年収差は32万円に対し、夫が妻に望む理想と現実の年収差は159万円と両者に大きな開きが！理想に近づくカギは女性活躍による収入アップ？

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「賃金と女性活躍」について分析！

2. 子育てをとりまく環境（詳細は12～16ページ参照）

■「働きたい」専業主婦は、前年から大きく上昇し過半数を超える！
「働きたいのに働けていない」理由は約半数の人がワンオペ育児

当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「女性の働く環境と男性育休」について分析！

■世界的に高水準にある日本の育児休暇制度も、男性の取得日数は低迷
男性の育児休暇取得率はわずか16.1%！取得できない理由は「周囲の環境不足」
今後取得しやすくする為には、制度整備プラス「取得しやすい職場の雰囲気」が重要

3. 子育てにおける男女の価値観（詳細は17～19ページ参照）

■子育てに点数をつけるとしたら…。妻がイクメンと思う合格ラインは「約60点」！？

■「子育ては女性の仕事」と根強い意識

さらなるイクメンの浸透には男女とも意識の変革が必要！？

4. イクメンだと思える有名人ランキング（詳細は20～22ページ参照）

■理想のイクメン20代から30代の芸能人部門 第1位は「杉浦 太陽さん」

■理想のイクメン40代から50代の芸能人部門 第1位は「つるの 剛士さん」

■理想のイクメンスポーツ選手部門 第1位は「長友 佑都さん」

<対象者の属性>

1. 調査対象

0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2019年5月24日(金)～5月30日(木)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,100人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	夫婦共働き	妻が専業主婦	計
0歳から6歳までの子どもがいる既婚男性	330	220	550
0歳から6歳までの子どもがいる既婚女性	330	220	550
計	660	440	1,100

【目 次】

1. 子育て費用に関する意識

- (1) 子育てにかかる費用 . . . 4～5ページ
- (2) 子どもの人数 . . . 6～9ページ
- (3) 年収の理想と現実 . . . 10～11ページ

2. 子育てをとりまく環境

- (1) 子どもが生まれた後の働き方 . . . 12～13ページ
- (2) 育児休暇について . . . 14～16ページ

3. 子育てにおける男女の価値観

- (1) イクメンの浸透と子育て点数 . . . 17ページ
- (2) 子育てにおける価値観の違い . . . 18～19ページ

4. イクメンだと思う有名人ランキング

- (1) 理想のイクメン（20代から30代の芸能人） . . . 20ページ
- (2) 理想のイクメン（40代から50代の芸能人） . . . 21ページ
- (3) 理想のイクメン（スポーツ選手） . . . 22ページ

1. 子育て費用に関する意識

(1) 子育てにかかる費用

子育て費用の不足額は月額約2.4万円！
最も負担に感じるのは「保育園・幼稚園代」で、
共働き世帯の女性と専業主婦では負担感に違いが！

- 現在0歳から6歳までの子どもがいる既婚男女に、子育てにかかる費用（月額）について聞きました。
- 平均金額は「40,687円」（前年39,240円）で、前年よりも「1,447円」増加しました。また、不足額（月額）について聞いたところ、不足していると回答した人の平均金額は「23,620円」でした。
- 子育てにかかる費用を、夫婦共働き世帯と専業主婦世帯で比べると、共働き世帯は「46,005円」支出しているに対し、専業主婦世帯は「32,637円」で、共働き世帯の方が「13,368円」多く支出していることがわかりました。
- また、不足額については、共働き世帯は「25,509円」、専業主婦世帯は「20,803円」不足していると回答しており、その差は「4,706円」でした。

■子育てにかかる費用（月額）

	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均(円: 0を含まない)
2018年 全体	1,100	1.2	10.4	9.7	18.2	18.2	24.0	15.6	2.7	39,240
2019年 全体	1,100	0.4	14.3	5.7	11.5	17.2	30.9	17.8	2.3	40,687

■子育てにおいて足りないと思う金額（月額）

	回答者数 (人)	0円 (%)	～5千円 (%)	～1万円 (%)	～2万円 (%)	～3万円 (%)	～5万円 (%)	～10万円 (%)	10万円超 (%)	平均(円: 0を含まない)
2018年 全体	1,100	30.7	7.6	17.2	20.1	13.5	9.1	1.4	0.5	23,982
2019年 全体	1,100	29.8	9.2	15.4	21.5	12.6	9.2	2.1	0.3	23,620

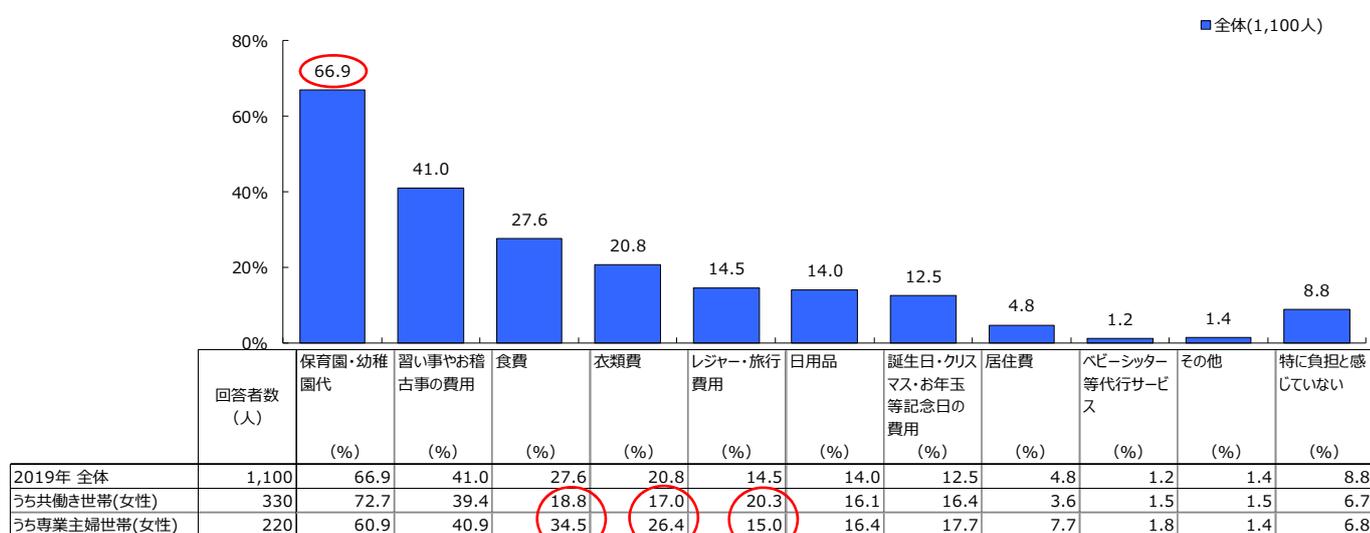
■子育てにかかる費用（月額 世帯別）

	子育てにかかる費用 平均(円:0を含まない)	不足額 平均(円:0を含まない)
全体	40,687	23,620
共働き世帯(全体)	46,005	25,509
専業主婦世帯(全体)	32,637	20,803
共働き世帯－専業主婦世帯の差	13,368	4,706

○費用のうち、負担が大きいと感じるものは、「保育園・幼稚園代」が66.9%でトップ、続いて「習い事やお稽古事の費用」(41.0%)、「食費」(27.6%)の順となりました。

○共働き世帯の女性と専業主婦世帯の女性で見ると、日々の生活に関わる費用である、「食費」では、共働き世帯の女性18.8%に対し、専業主婦34.5%、「衣類費」では、共働き世帯の女性17.0%に対し、専業主婦26.4%と、専業主婦の方が負担に感じています。「レジャー・旅行費用」については、共働き世帯の女性20.3%に対し、専業主婦15.0%で、共働き世帯の女性の方が負担に感じており、働き方によって負担感の違いがあらわれているようです。

■子育てにおいて負担が大きいと感じている費用（複数回答）



1. 子育て費用に関する意識

(2) 子どもの人数

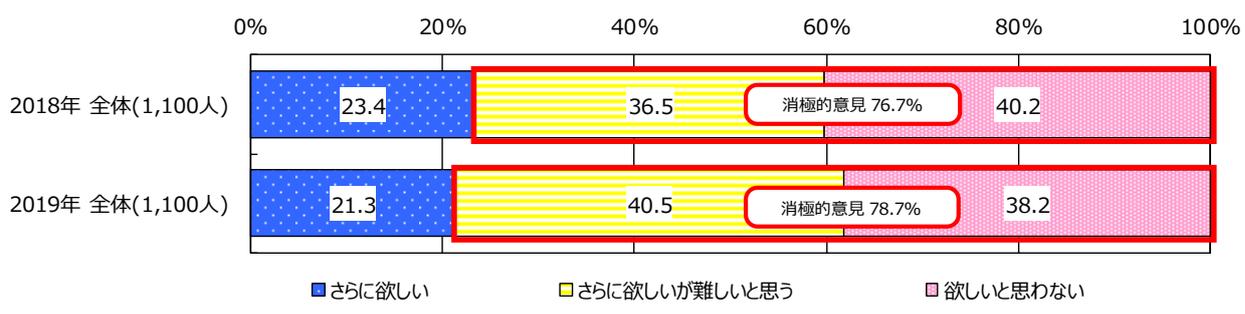
「幼児教育・保育の無償化」について4人中3人が「賛成」！
しかし、導入後子どもを「さらに欲しい」と回答した人はわずか2.2%

○今後さらに子どもを欲しいか聞いてみました。

○前年同調査と比べると、全体で、「さらに欲しい」という積極的な意見は21.3%（前年23.4%）で前年から減少した一方、「さらに欲しいが難しいと思う」、「欲しいと思わない」という消極的な意見の合計は78.7%（同76.7%）と、前年から増加する結果となりました。

○子どもの人数別に前年と比較してみると、「2人目を欲しい」と回答した人は、前年41.7%から38.5%へ、「3人目を欲しい」と回答した人は前年13.3%から12.9%へ、「4人目以上を欲しい」と回答した人は、前年10.7%から7.2%へと、子どもの人数に関わらず、さらに子どもを欲しい人は全体で減少傾向となっています。

■さらに子どもを欲しいかどうか



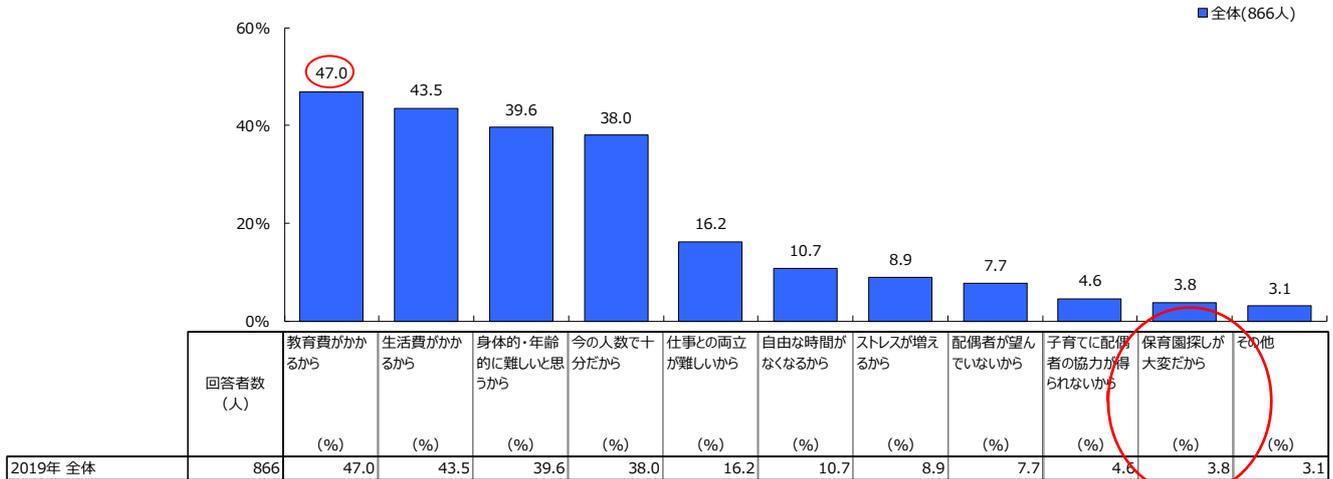
	回答者数 (人)	さらに欲しい (A) (%)	さらに欲しいが難しいと思う(B) (%)	欲しいと思わない (C) (%)	消極的意見合計 (B+C) (%)
2018年 全体(1,100人)	1,100	23.4	36.5	40.2	76.7
2019年 全体(1,100人)	1,100	21.3	40.5	38.2	78.7

■さらに子どもを欲しいかどうか（子どもの人数別 前年比較）

	2人目を欲しい (%)	3人目を欲しい (%)	4人目以上を欲しい (%)
2018年	41.7	13.3	10.7
2019年	↓ 38.5	↓ 12.9	↓ 7.2

○「さらに欲しいが難しいと思う」「欲しいと思わない」と回答した人の理由は、「教育費がかかるから」が、47.0%でトップ。続いて「生活費がかかるから」が、43.5%の結果で、子どもをさらに欲しいと思わない要因として、子育てにおける費用の問題が大きく占めているようです。

■子どもを「さらに欲しいが難しい」「欲しいと思わない」（消極的合計）理由

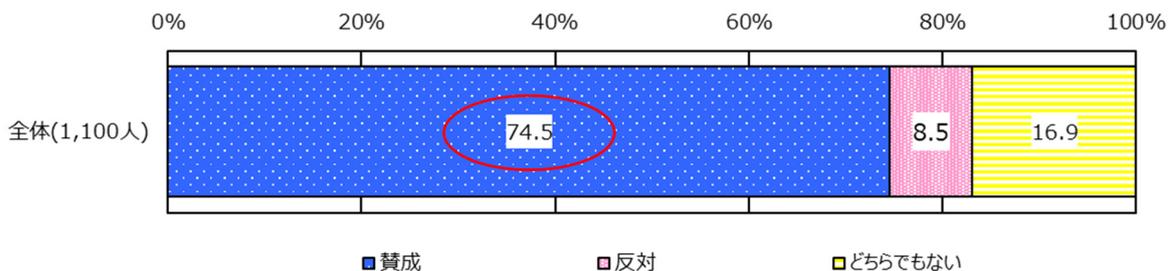


10ページ
グラフと比較

○そこで、教育費の負担を軽減するための新たな制度として今年10月から導入された「幼児教育・保育の無償化」について、賛成か反対かをきいてみました。

○全体では、「賛成」が74.5%、「反対」が8.5%、「どちらでもない」が16.9%と、4人中3人が導入に「賛成」と回答し、子育て世帯は概ね制度導入を負担軽減と捉え歓迎しているようです。

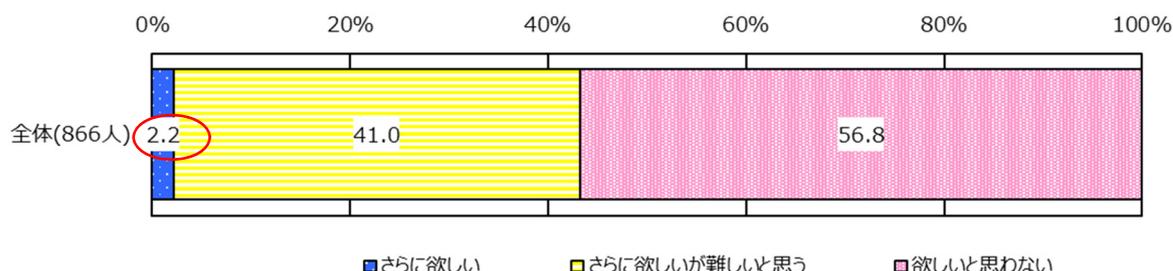
■「幼児教育・保育の無償化」導入についての賛否



○次に、子どもをさらに欲しいかという問いで消極的回答（「さらに欲しいが難しい」「欲しいと思わない」）をした人に、「幼児教育・保育の無償化」導入後、さらに子どもが欲しいかを聞いてみたところ、「さらに欲しい」と回答した人は、わずか2.2%にとどまる結果となり、「さらに欲しいが難しいと思う」41.0%、「欲しいと思わない」56.8%となりました。

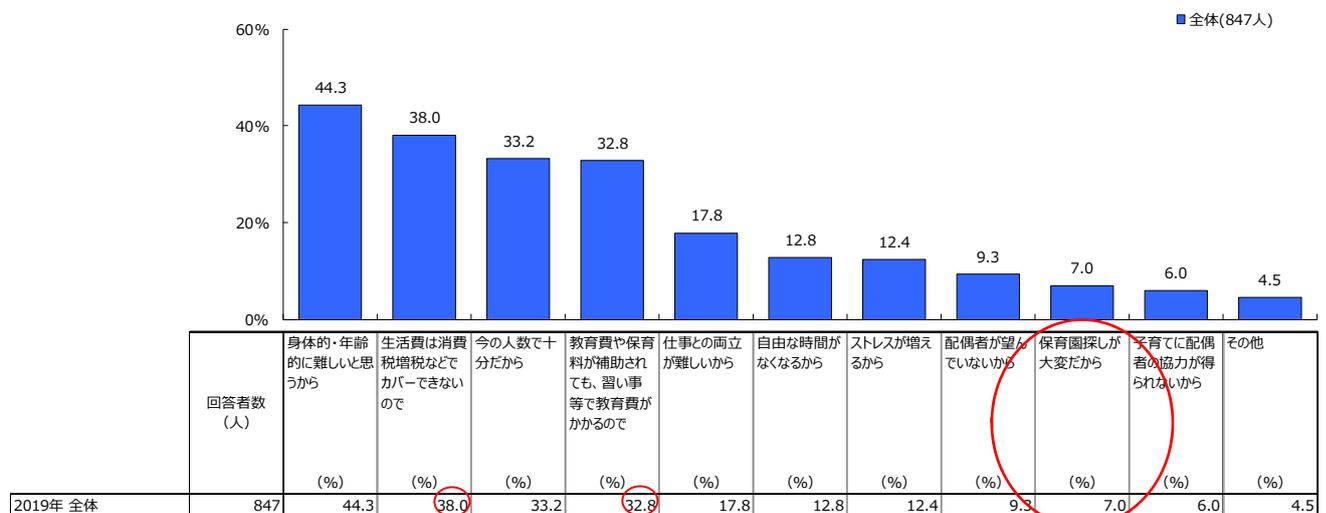
■「幼児教育・保育の無償化」導入により、さらに子どもを欲しいかどうか

※回答対象者：子どもをさらに欲しいかという問いに
消極的回答（「さらに欲しいが難しい」「欲しいと思わない」）をした人



○「さらに欲しいが難しいと思う」「欲しいと思わない」と回答した人の主な理由は、「生活費は消費税増税などでカバーできない」（38.0%）、「教育費や保育料が補助されても、習い事等で教育費がかかる」（32.8%）が上位を占めており、費用面の問題がぬぐいきれていないことがわかります。また、「保育園探しが大変だから」という回答は、「幼児教育・保育の無償化」の導入前（※8ページグラフ参照）と導入後（※10ページグラフ参照）での同じ問いに対して、回答数が倍になっており、「幼児教育・保育の無償化」導入により、保育園不足となることを懸念している人が一定数存在していることもわかります。

■「幼児教育・保育の無償化」導入後、
子どもを「さらに欲しいが難しい」、「欲しいと思わない」（消極的合計）理由



8ページ
グラフと比較

○子育て世帯は「幼児教育・保育の無償化」の導入を、現在の不足費用を補う点では賛成であるものの、消費税増税等の先行きの見えない経済的不安等から、さらに子どもが欲しいという気持ちには至らないようです。

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



子どもがほしいと思わない理由として、費用面の理由以外では「身体的、年齢的に難しいから」が39.6%と一番多くなっています。これは、少子化の要因のひとつが晩婚化であることを示唆しています。背景には、非正規雇用で働く若者が増え、所得面で結婚生活に不安を感じていることがあります。政府にとっては、正規、非正規の垣根を取り払うような労働市場改革の推進が不可欠であることを示したと言えるでしょう。また、「保育園探しが大変だから」という回答が、無償化政策導入後に倍に増えています。これは、保育園不足を放置したままでは、「幼児教育・保育の無償化」策が逆効果になりかねないという点で、政府の子育て対策の課題を明らかにしたと言えます。

1. 子育て費用に関する意識

(3) 年収の理想と現実

**子育て世帯の理想の年収は現実から277万円不足
解決のカギは妻の年収アップ!?**

○子育てををするにあたって理想の年収について聞きました。

○子育て世帯の理想の世帯年収は、1,032万円（夫：773万円+妻：259万円）となり、前年と比較すると前年1,029万円（夫：759万円+妻：270万円）から3万円アップしました。現実の世帯年収755万円（夫：626万円+妻：129万円）との差は277万円となり、前年差の274万円から、こちらも3万円アップしました。

○次に、相手に望む理想の年収を聞いたところ、夫が妻に望む理想の年収は288万円で、現実の妻の年収との差は159万円でした。一方、妻が夫に望む理想の年収は658万円で、現実の夫の年収との差は32万円でした。

■理想と現実の平均年収差

		男性	女性
自分の理想の年収	(A)	773万円	259万円
自分の現実の年収	(B)	626万円	129万円
配偶者から望まれている年収	(C)	658万円	288万円
現実の年収との差	(B) - (C)	-32万円	-159万円

■夫と妻の現実の年収 ※男女それぞれが自身のことについて回答

	回答者数 (人)	0円 (%)	~100万円 未満 (%)	~200万円 未満 (%)	~300万円 未満 (%)	~400万円 未満 (%)	~500万円 未満 (%)	~600万円 未満 (%)	~700万円 未満 (%)	~800万円 未満 (%)	~900万円 未満 (%)	~1000万円 未満 (%)	1000万円 以上 (%)	平均(万円: 0円を含む)
男性計	550	-	-	1.5	3.1	8.9	15.1	20.9	16.9	11.6	8.4	3.8	9.8	626
女性計	330	40.0	14.5	16.4	10.4	8.5	5.8	2.4	0.9	0.4	0.2	0.4	0.2	129

■夫の理想の年収 ※男性計=男性が自身について回答、女性計=女性が夫について回答

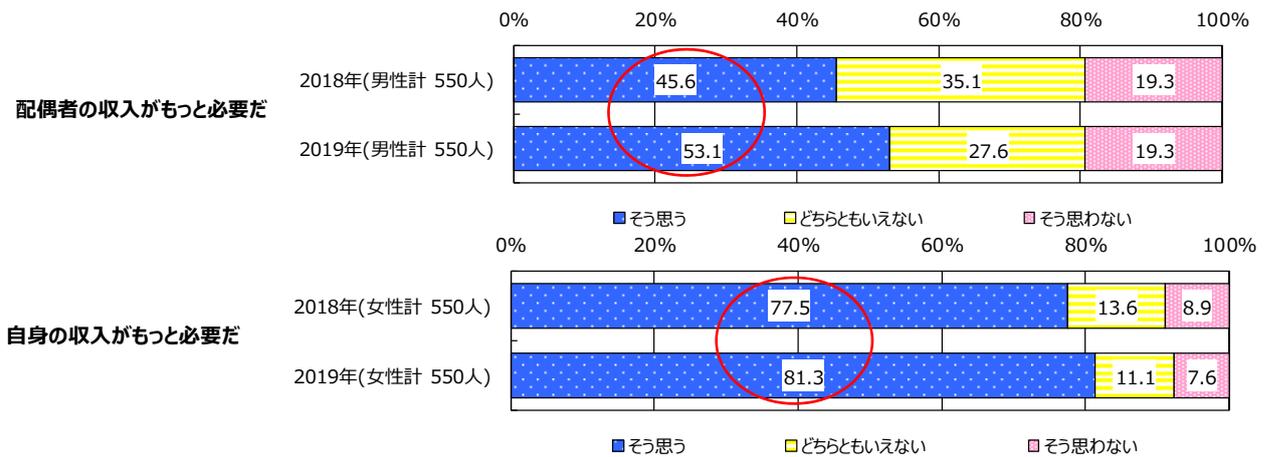
	回答者数 (人)	0円 (%)	~100万円 未満 (%)	~200万円 未満 (%)	~300万円 未満 (%)	~400万円 未満 (%)	~500万円 未満 (%)	~600万円 未満 (%)	~700万円 未満 (%)	~800万円 未満 (%)	~900万円 未満 (%)	~1000万円 未満 (%)	1000万円 以上 (%)	平均(万円: 0円を含む)
男性計	550	-	0.4	0.7	0.9	4.5	5.6	14.5	17.5	12.4	16.9	4.5	22.0	773
女性計	550	0.5	2.0	1.6	2.4	4.0	10.0	19.8	18.2	11.1	12.5	3.8	14.0	658

■妻の理想の年収 ※男性計=男性が妻について回答、女性計=女性が自身について回答

	回答者数 (人)	0円 (%)	~100万円 未満 (%)	~200万円 未満 (%)	~300万円 未満 (%)	~400万円 未満 (%)	~500万円 未満 (%)	~600万円 未満 (%)	~700万円 未満 (%)	~800万円 未満 (%)	~900万円 未満 (%)	~1000万円 未満 (%)	1000万円 以上 (%)	平均(万円: 0円を含む)
男性計	550	14.5	4.0	25.1	13.8	11.6	8.0	12.2	3.8	0.9	2.5	0.2	3.3	288
女性計	550	9.8	7.5	26.0	12.7	17.1	9.5	10.0	2.4	1.8	2.0	-	1.3	259

- 子育て費用に関する意識について、「配偶者の収入がもっと必要だ」と回答した男性は前年45.6%から53.1%へ大幅に上昇しました。次に、「自身の収入がもっと必要だ」と回答した女性は前年77.5%から81.3%へ大幅に上昇しました。
- 配偶者から望まれている年収と現実の年収差が妻の方が大きいことから、夫は前年よりもさらに妻に稼いでほしいと思っており、妻は、賃金の伸び悩みからか、夫の収入アップへの期待感が薄く、自身の収入アップが必要だと感じているのかもしれませんが。子育て世帯理想の年収に近づくためには、女性のさらなる社会での活躍がカギといえそうです。

■子育て費用を確保するために必要なこと（前年比較）



～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



子育て費用について、「配偶者の収入が必要だ」と回答した男性が、前年の45.6%から53.1%へ大幅に上昇、女性の「自身の収入が必要」との回答も同様に上昇しました。実際、女性の社会進出は着実に進んでいます。2018年の国内就業者の増加数の134万人のうち、女性が87万人と、全体の66%を占めました。日本では過去、子育て期の女性の労働力率が大きく下がるのが特徴で、横軸に年齢、縦軸に労働力率をとった折れ線グラフを、その形状から「M字カーブ」と呼んできました。しかし、いまやMのへこみはほぼ解消、子育て期の労働力率は米国とも遜色ありません。今後は、待遇面でも女性が男性と平等に扱われるような、労働市場の制度、伝統、慣習の改革が必要です。

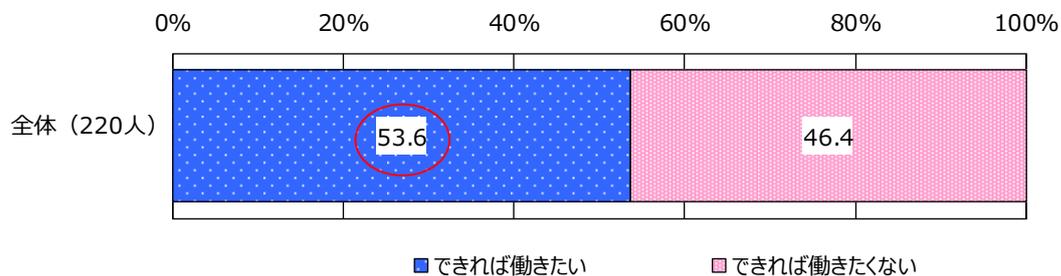
2. 子育てをとりまく環境

(1) 子どもが生まれた後の働き方

専業主婦が「働きたい」という気持ちは前年から大きく上昇！
「働きたいのに働けていない」専業主婦の割合は過半数を超える！

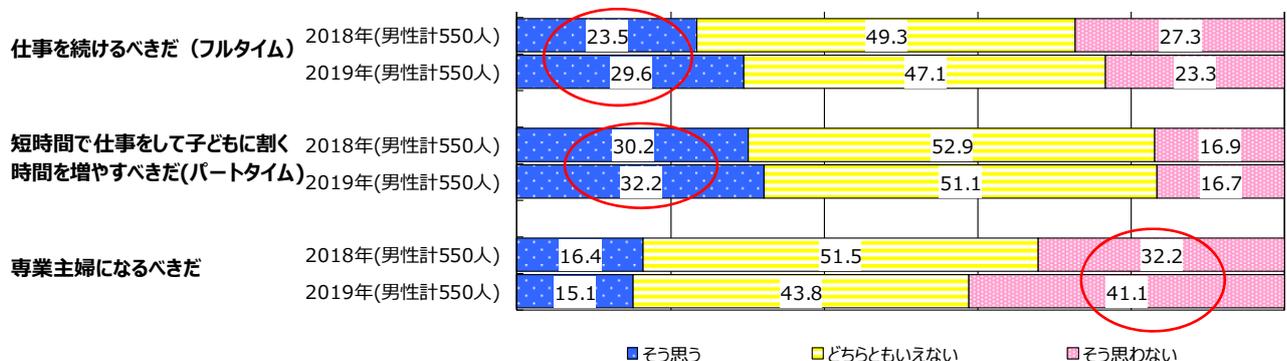
- 現在0歳～6歳までの子どもがいる専業主婦に、子育て期間中の勤労意欲について聞きました。
- 専業主婦の約5割（53.6%）が「働きたい」と回答し、前年同調査と比較すると、13.1%増加しました。

■子育て期間中の勤労意欲（専業主婦回答）



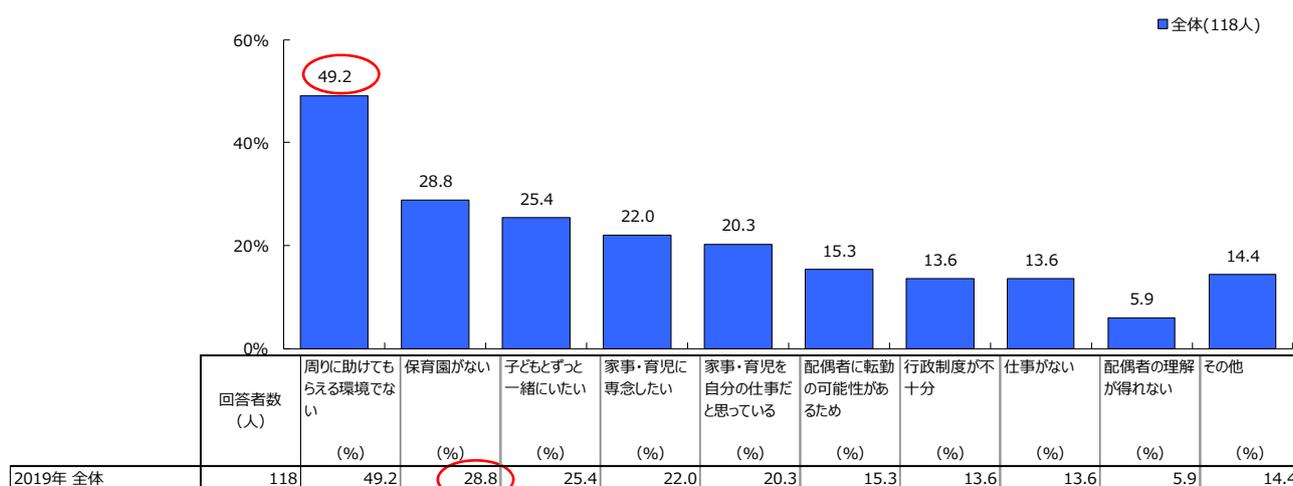
- 専業主婦を妻に持つ男性に出産後の女性の働き方に対する意識について聞いたところ、「フルタイムで仕事を続けるべき」は29.6%（前年23.5%）で、「パートタイムで働き子育ての時間を増やすべき」は32.2%（同30.2%）と、いずれも前年から増加しています。また、「専業主婦になるべき」と、働くことに対して否定的な意見について、「そう思わない」と回答した人も、41.1%（同32.2%）に増加しています。
- 女性の社会進出が進むなか、前述のとおり妻の収入アップを望む夫も前年から大幅に増加するなど、収入面から妻が働くことを期待する夫や、妻の働く意欲を後押ししようとする夫が増えているようです。

■子どもが生まれた後の妻の働き方・考え方（男性回答 前年比較）



○では、「働きたいのに働けない」要因が何か、その理由について聞くと、「周りに助けてもらえる環境でない」と回答した人が49.2%と最も多く、約半数の人がワンオペ育児により「働きたいのに働けていない」現状があることがわかりました。前述のとおり、男性の妻が働くことに対する期待や理解が高まっている一方、女性が安心して働くことのできるサポート面では、まだまだ男性のサポートが不足しているのかもしれませんが。また、「保育園がない」は、28.8%と、3割弱の人が保育園不足により働けていないようです。

■働きたいのに現在働いていない理由（専業主婦回答 複数回答）



○現在日本では労働力人口が減り続けており、働き手不足は加速しています。さまざまな改善策が議論されているなか、「働きたいのに働けない」という潜在的労働力をいかに活用していくかが、重要なテーマといえます。2019年6月に公布された女性活躍推進法等の一部改正法により、今後よりいっそう女性の働きやすい環境が整備されることが期待されますが、「働きたいのに働けない」潜在的労働力を労働力人口へ引き上げるためには、男性は期待や理解を示すだけでなく、実働をともなった育児への協力が重要であり、また、保育園や保育士の増加による待機児童問題の解消が必要かもしれません。

2. 子育てをとりまく環境

(2) 育児休暇について

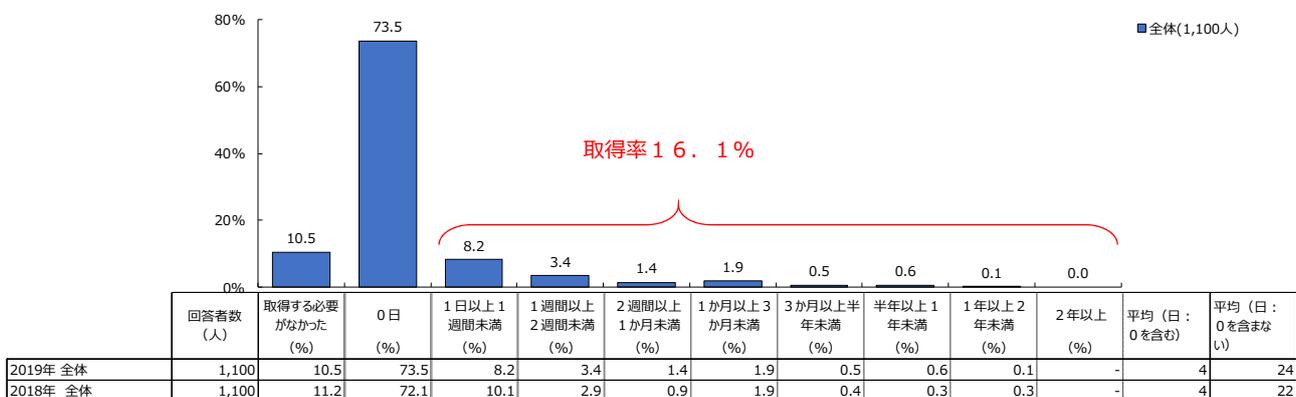
**日本の男性育児休暇制度は世界一の評価にも関わらず、
男性の育児休暇取得率はわずか16.1%!**

- ユニセフの報告書によると、日本は父親に認められている育児休業期間が約30週と、世界で最も長い国であると評価されています。
- そこで、男性の育児休暇の取得状況について聞いてみました。
- 育児休暇の取得率が「0日」と回答した人は前年72.1%から今年73.5%と増加しており、1日以上取得した人は、わずか16.1%にとどまる結果でした。
- 取得日数については、「0日」を含める平均日数は「4日」で、1日以上取得している人の平均日数は「24日」という結果でした。
- 一方取得のうち最も多いのは1日以上1週間未満（8.2%）で過半数を占めており、本格的な制度活用には至っていない現状が見受けられます。

(※) 引用：ユニセフ「先進国における家族にやさしい改革」

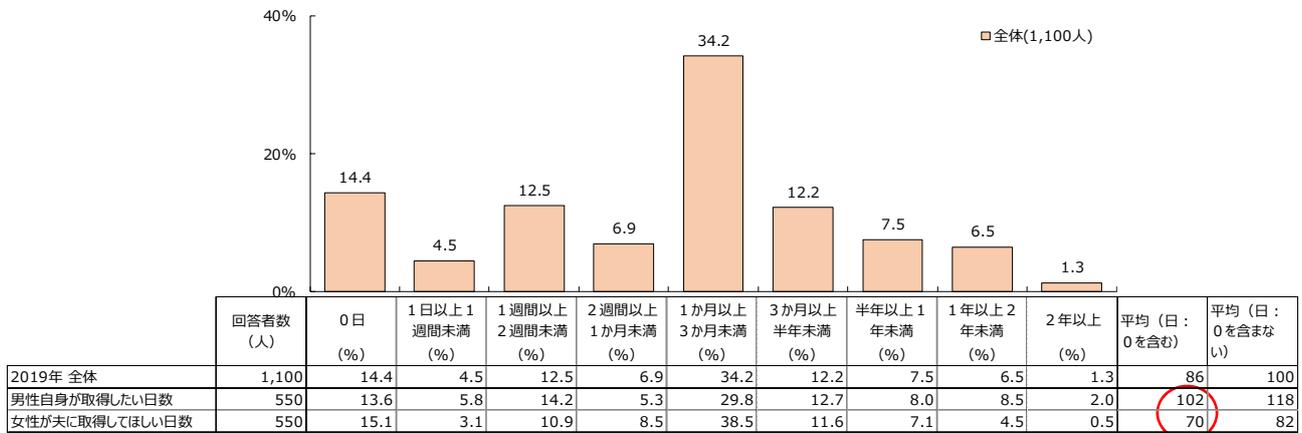
<https://www.unicef.or.jp/news/2019/0087.html>

■育児休暇取得日数



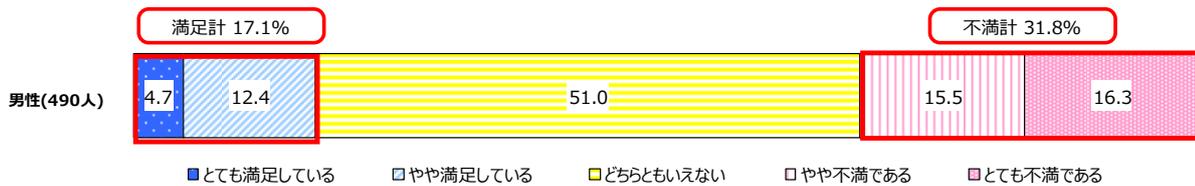
- 次に、男性には自身が取得したい育児休暇日数を、女性には夫に取得してほしい育児休暇日数を聞くと、男性自身が取得したい平均日数は、「102日」、女性が配偶者に取得してほしい日数は「70日」という結果で、両者とも現実には、まだまだ遠く及ばないようです。

■理想の育児休暇日数



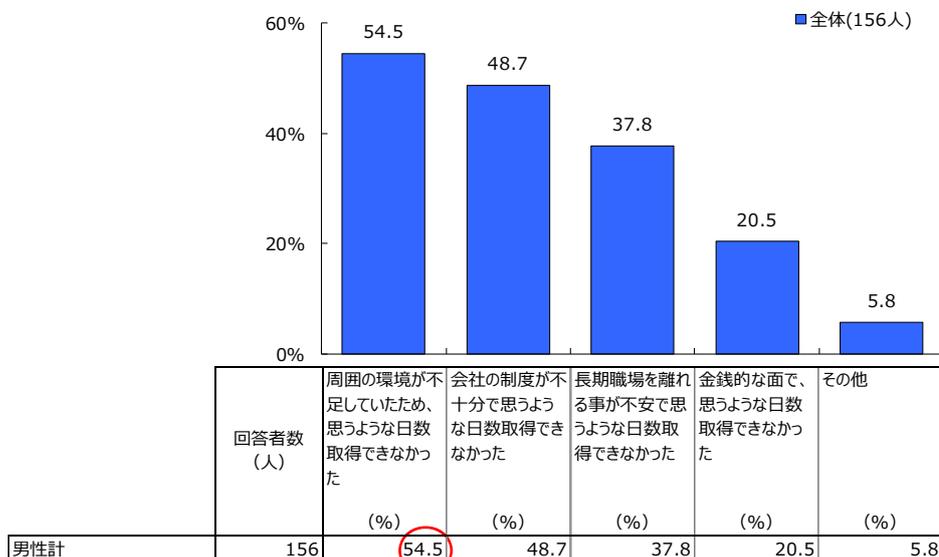
○また、男性自身の育児休暇取得日数の満足度についても、「満足」は17.1%、「不満」は31.8%という結果でした。

■男性の育児休暇取得日数満足度



○では、なぜ取得できなかったのか、自身の取得日数を不満に思っている男性に理由を聞くと、「周囲の環境が不足していたため、思うような日数取得できなかった」が54.5%でトップでした。

■男性の育児休暇取得日数の不満理由 (複数回答)



○世界一と評価されている日本の男性の育児休暇制度ですが、今後は社会全体の男性が育児休暇を取得しやすくする雰囲気づくりや、環境整備が重要であるといえそうです。

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



女性が働きたいのに働けない理由として、「周りに助けてもらえる環境がない」との回答が49.2%に達しています。父親の意識改革も重要ですが、日本の会社では、男性の育休取得に対する周囲の目が冷たく（パタハラ）、制度と実態の乖離が著しい点が問題です。また、保育園がないとの回答も28.8%に達しています。幼児教育・保育の無償化は、保育園の需給を余計ひっ迫させるという点で待機児童問題には逆効果であり、新たな対応が求められています。

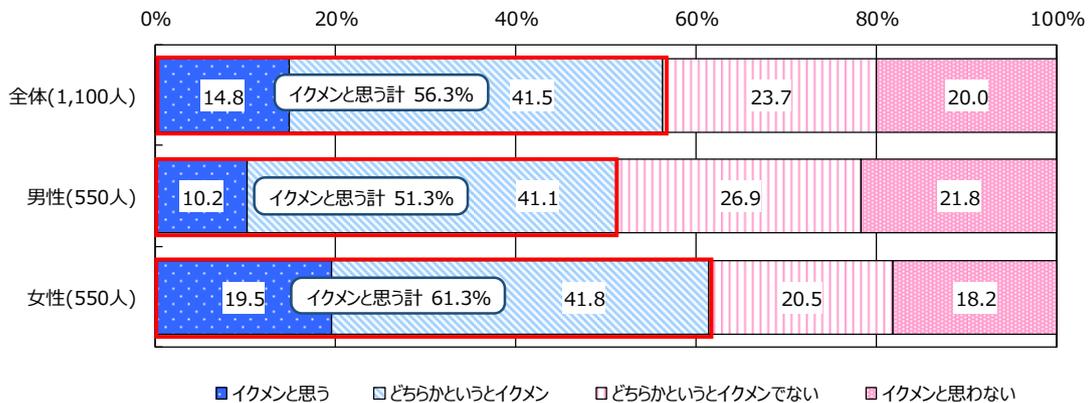
3. 子育てにおける男女の価値観

(1) イクメンの浸透と子育ての点数

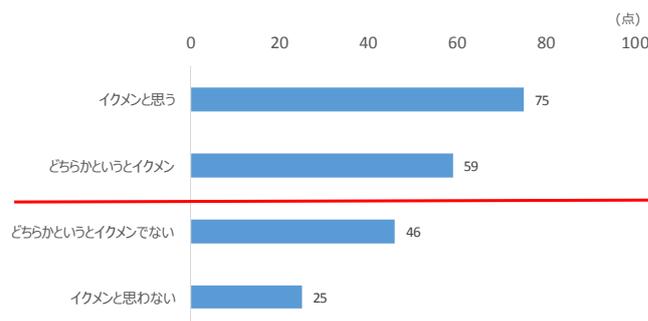
子育てに点数をつけるとしたら…。
妻がイクメンと思う合格ラインは「約60点」！？

- 0～6歳の子どもがいる男女に、「イクメンかどうか」（男性の自己評価、女性の夫への評価）を聞いてみました。
- 全体で「イクメンと思う」と回答した人の平均は14.8%、「どちらかというといクメンと思う」と回答した人の平均は41.5%で、「イクメンと思う計（イクメンと思う+どちらかというといクメンと思う）」は56.3%となり、前年の55.6%から0.7%増加と微増であり、半数で定着しています。
- 男女別の評価をみてみると、男性は自分自身をイクメンと認めている「イクメンと思う計」が51.3%である一方、女性が自身の夫をイクメンと認めている「イクメンと思う計」は61.3%で、女性の方が夫をイクメンと認める比率が高い結果となりました。
- 次に、女性がどのような基準で夫をイクメンと評価しているかを計るため、夫の子育てに点数をつけてもらいました。
- 女性が夫につけた点数で、「イクメンと思う」と評価している人の平均点は75点、「どちらかというといクメンと思う」と評価している人の平均は59点、「どちらかというといクメンでない」は平均46点「イクメンと思わない」は平均25点となり、妻から「イクメン」と評価されるためには、「約60点」の評価を得ることが必要なようです。

■イクメン度



■女性が思うイクメン度別 夫の子育て平均点



3. 子育てにおける男女の価値観

(2) 子育てにおける価値観の違い

「子育ては女性の仕事」と根強い意識
さらなるイクメンの浸透には男女とも意識の変革が必要！？

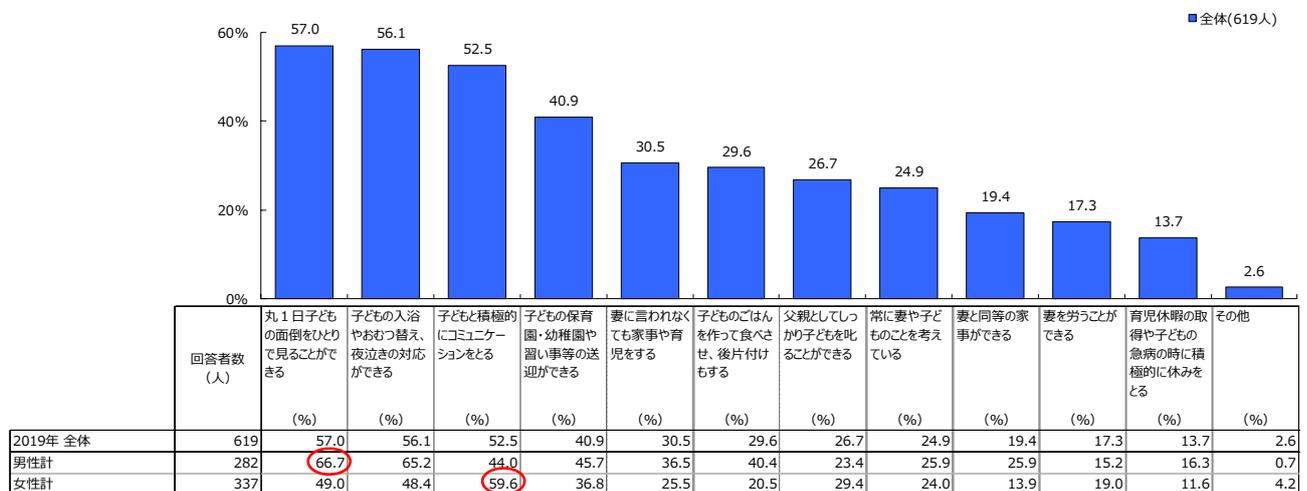
○男女それぞれに子育ての価値観について聞いてみました。

○夫を「イクメンと思う計」と回答した女性に理由を聞いてみると、「子どもと積極的にコミュニケーションをとる」が59.6%でトップとなり、次いで「丸1日子どもの面倒をひとりで見ることができる」が49.0%、「子どもの入浴やおむつ替え、夜泣きの対応ができる」が48.4%となりました。

○一方、自身が「イクメンと思う計」と回答した男性にその理由を聞いてみると、トップは「丸1日子どもの面倒をひとりで見ることができる」が66.7%で、次いで「子どもの入浴やおむつ替え、夜泣きの対応ができる」が65.2%、「子どもの保育園・幼稚園や習い事等の送迎ができる」が44.0%となりました。

○理由の項目について男女間ギャップをみると、女性は「子どもと積極的にコミュニケーションをとる」や「父親としてしっかり子どもを叱ることができる」「妻を労うことができる」の項目が男性より回答数が多く、男性は「子どものご飯を作って食べさせ、後片付けもする」や「子どもの入浴やおむつ替え、夜泣きの対応ができる」が特に、女性よりも多い結果となりました。

■自身または夫を「イクメンと思う計」とした理由（複数回答）



○また、「イクメンと思わない計」の理由では、男性は「家事は妻に任せきりだ」が39.6%でトップに対して女性は「子どもより自分のことを優先する」が56.3%でトップの結果でした。

■自身または夫を「イクメンと思わない計」とした理由（複数回答）

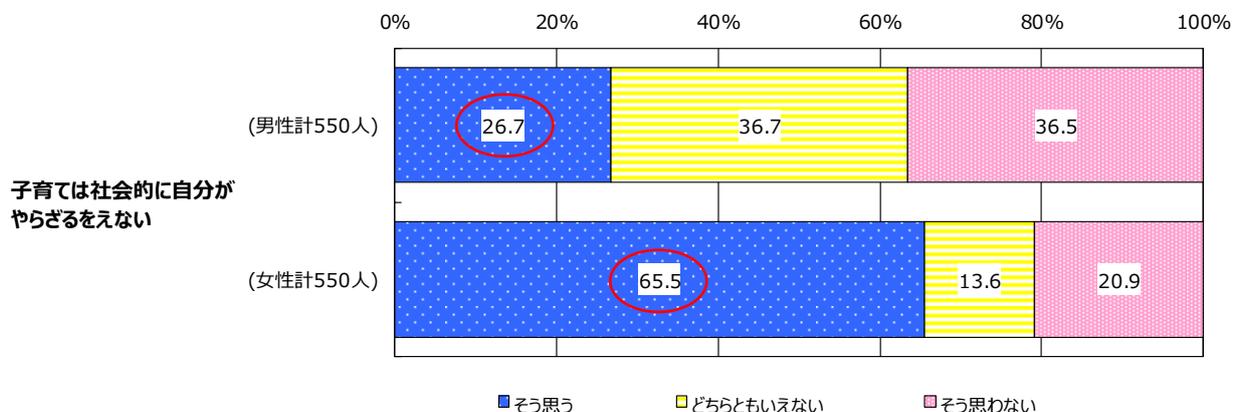


○女性は男性よりも、家族とのコミュニケーションや心のつながりを重視している傾向が高いのに対し、男性は女性よりも家事や育児における作業を重視している傾向があり、価値観にギャップがあります。半数で定着しているイクメンをさらに増やすためには、男性は、家族とのコミュニケーションを重視して、子育てに取り組むと良いのかもしれない。

○一方、子育てに対する意識について、「子育ては社会的に自分がやらざるをえない」という回答が、男性が26.7%に対し女性65.5%と、女性の回答が圧倒的に多い結果となりました。社会的に子育ては女性の仕事であるという考え方が根強く残っており、男性の子育てへの参入を阻害しているのかもしれない。

男性が女性との子育てにおける価値観を埋めることと同様に、女性の意識の変革も、さらなるイクメンの浸透に向けて必要な要素なのかもしれません。

■子育てに対する意識（男女比較）



4. イクメンと思う有名人ランキング

(1) 理想のイクメン（20代から30代の芸能人）

理想のイクメン20代から30代の芸能人部門
第1位は2年連続で「杉浦 太陽さん」

- 20代から30代の芸能人を対象に「理想のイクメン」について聞きました。
- 第1位は「杉浦 太陽さん」、第2位は「りゅうちえるさん」、第3位は「水嶋 ヒロさん」となりました。
- 「杉浦 太陽さん」は男女とも圧倒的な支持を集め、2年連続で第1位の結果となりました。理由は「子育てにちゃんと参加していそうだから」が57.6%でトップ。次いで、「妻を労っていそうだから」が41.8%という結果でした。
- 1位の「杉浦 太陽さん」の選出理由を男女別で見ると、男女とも最も多い回答は「子育てにちゃんと参加していそうだから」（男性：43.9% 女性：67.5%）でした。その他理由では、男性は「やさしいイメージがあるから」35.8%、女性は「妻を労っていそうだから」51.0%といった回答が多い結果となりました。

■理想のイクメン（20代から30代の芸能人）ベスト5

全体		
1位	杉浦太陽	354人
2位	りゅうちえる	173人
3位	水嶋ヒロ	101人
4位	中尾明慶	84人
5位	ユージ	69人

男性			女性		
1位	杉浦太陽	148人	1位	杉浦太陽	206人
2位	りゅうちえる	33人	2位	りゅうちえる	140人
3位	水嶋ヒロ	30人	3位	水嶋ヒロ	71人
3位	佐藤隆太	30人	4位	中尾明慶	61人
3位	小栗旬	30人	5位	ユージ	49人

■杉浦 太陽さん 主な選出理由（複数回答）

	回答者数 (人)	子育てにちゃんと 参加していそうだ から (%)	妻を労っていそ うだから (%)	やさしいイメー ジがあるから (%)	仕事と家庭を両 立しているイメ ジがあるから (%)	自分のことより も、妻や子ども のことを優先して うだから (%)	子育て経験が豊 富そうだから (%)	頼りになるイメ ジがあるから (%)
全体	354	57.6	41.8	31.9	29.9	12.7	28.0	8.2
男性	148	43.9	29.1	35.8	30.4	8.8	22.3	9.5
女性	206	67.5	51.0	29.1	29.6	15.5	32.0	7.3

4. イクメンと思う有名人ランキング

(2) 理想のイクメン（40代から50代の芸能人部門）

理想のイクメン40代から50代の芸能人部門
第1位は2年連続で「つるの 剛士さん」

- 40代から50代芸能人を対象に「理想のイクメン」について聞きました。
- 第1位は「つるの 剛士さん」、第2位は「市川 海老蔵さん」、第3位は「はなわさん」となりました。
- 「つるの 剛士さん」は男女とも第1位で、20代から30代の芸能人で選出された「杉浦 太陽さん」同様、2年連続で第1位の結果となりました。
- 第1位の「つるの 剛士さん」の選出理由は「子育てにちゃんと参加していそうだから」が58.5%でトップ。次いで、「子育て経験が豊富そうだから」が34.1%という結果でした。
- 第2位の「市川 海老蔵さん」は「仕事と家庭を両立しているイメージがあるから」が62.5%でトップ。第3位の「はなわさん」は「子育てにちゃんと参加していそう」が、59.8%でトップでした。

■理想のイクメン（40代から50代の芸能人）ベスト5

全体		
1位	つるの剛士	475人
2位	市川海老蔵	136人
3位	はなわ	107人
4位	谷原章介	91人
5位	伊達みきお（サンドウィッチマン）	69人

男性			女性		
1位	つるの剛士	163人	1位	つるの剛士	312人
2位	はなわ	52人	2位	市川海老蔵	93人
3位	市川海老蔵	43人	3位	谷原章介	57人
4位	伊達みきお（サンドウィッチマン）	39人	4位	はなわ	55人
5位	谷原章介	34人	5位	藤井隆	35人

■上位3名の主な選出理由（複数回答）

	回答者数 (人)	子育てにちゃんと 参加していそうだ から (%)	仕事と家庭を両 立しているイメ ジがあるから (%)	頼りになるイメ ジがあるから (%)	子どもの気持ち がわかっていそ うだから (%)	妻を労っていそ うだから (%)	子育て経験が豊 富そうだから (%)	やさしいイメ ジがあるから (%)	自分のことより も、妻や子ども のことを優先して うだから (%)
つるの剛士	475	58.5	34.1	15.8	13.9	28.0	34.1	25.9	14.3
市川海老蔵	136	40.4	62.5	47.8	23.5	10.3	2.9	10.3	19.1
はなわ	107	59.8	25.2	15.0	33.6	26.2	17.8	14.0	15.9

4. イクメンと思う有名人ランキング

(3)理想のイクメン（スポーツ選手部門）

今年新設の理想のイクメンスポーツ選手部門 第1位は「長友 佑都さん」

○スポーツ選手を対象に「理想のイクメン」について聞きました。

○第1位は「長友 佑都さん」、第2位は「魔裊斗さん」、第3位は「大久保 嘉人さん」となり、「長友 佑都さん」は男女とも第1位でした。

○第1位の「長友 佑都さん」の選出理由は、「妻を労ってくれそうだから」が41.1%でトップ。次いで「子育てにちゃんと参加していそうだから」が34.0%でした。

○第2位の「魔裊斗さん」は「頼りになるイメージがあるから」が47.8%でトップ。第3位の「大久保 嘉人さん」は「子育てにちゃんと参加していそうだから」が52.4%でトップでした。

■理想のイクメン（スポーツ選手）ベスト5

全体		
1位	長友佑都（サッカー）	285人
2位	魔裊斗（キックボクシング）	159人
3位	大久保嘉人（サッカー）	105人
4位	長谷部誠（サッカー）	61人
5位	葛西紀明（スキージャンプ）	48人

男性		
1位	長友佑都（サッカー）	90人
2位	大久保嘉人（サッカー）	54人
3位	魔裊斗（キックボクシング）	51人
4位	長谷部誠（サッカー）	43人
5位	葛西紀明（スキージャンプ）	33人

女性		
1位	長友佑都（サッカー）	195人
2位	魔裊斗（キックボクシング）	108人
3位	大久保嘉人（サッカー）	51人
4位	内村航平（体操）	23人
5位	長谷部誠（サッカー）	18人

■上位3名の主な選出理由（複数回答）

	回答者数 (人)	妻を労ってくれ うだから (%)	子育てにちゃんと 参加していそうだ から (%)	頼りになるイメ ジがあるから (%)	何事にも一生懸 命取り組んでく れそうだから (%)	やさしいイメ ジがあるから (%)	子どもの気持ち がわかりそうだ から (%)	なんとなく (%)
長友佑都（サッカー）	285	41.1	34.0	27.0	31.9	32.6	6.3	20.0
魔裊斗（キックボクサー）	159	37.1	34.0	47.8	26.4	10.7	4.4	20.8
大久保嘉人（サッカー）	105	44.8	52.4	25.7	31.4	14.3	18.1	12.4